

Title	研究社会が選択する途：マクロな視点から
Author(s)	市川, 惇信
Citation	年次学術大会講演要旨集, 15: 302-306
Issue Date	2000-10-21
Type	Presentation
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/5797
Rights	本著作物は研究・技術計画学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Science Policy and Research Management.
Description	特別講演

研究社会が選択する途

—マクロな視点から—

市川 惇 信 (人事院人事官)

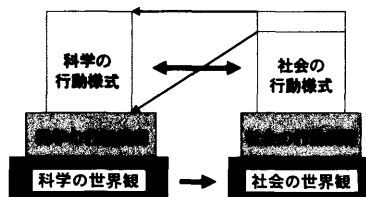
講演要旨：「科学」の方法は「仮説形成とその実証のループ」から明らかなように，無矛盾世界観と自然による実証（審判）を基盤とする。「技術」も同じ基盤に立つことにより科学と結合して「科学技術」となった．科学技術の基盤から社会を観るとき，社会の統合原理は，無矛盾世界観と審判思想により，世界観に関わりのない実力原理，無矛盾世界観の下での戒律原理と審判原理，および矛盾世界観の下で内部規範原理に区分される．内部規範原理により統合されている日本社会は，それに伴う科学技術の形態をもつ．そして，内部規範の束縛の下にある大学と研究組織，および内部規範原理が生み出す次世代教育の崩壊の下で，日本の研究社会に残された選択の途を探る．

研究・技術計画学会
第15回年次学術講演会

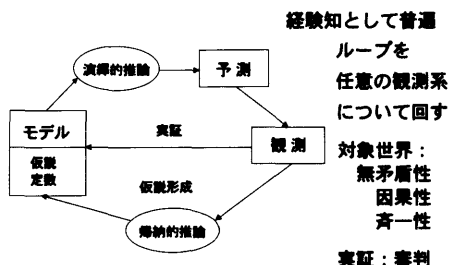
研究社会が選択する途 —マクロな視点から—

2000年10月22日
13:00～13:45

市川惇信

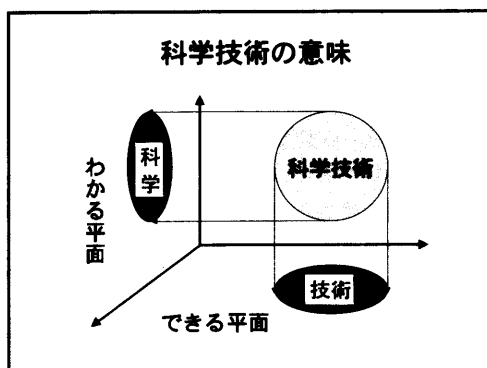


科学とは過程である



技術という知

- 有史以前，他の生物種にも存在
- 科学との結合
 - 道具のシステム化 無矛盾性，限定斉一
 - 科学の方法を探る技術
 - ！ 人の手が加わっても無矛盾性が保存
 - 空気ポンプ・熱力学
- 科学と技術の共進化



集団の維持

- 生物的社会的生き残りがかかる集団
- 行動規範：
 - 対立の発生を抑止する
 - 発生した対立の解消
- 統合原理：
 - 行動規範の全体は無矛盾
 - 原理が観察できる

統合原理における世界観と審判思想

統合原理の4つの型

	無矛盾世界観	矛盾世界観
	実力原理	
審判思想	審判規範原理	---
抑止思想	先験規範（戒律）原理	内部規範原理

実力原理社会

- 対立の度に実力により解決
- 実力による対立の抑止
- 独裁制の発生
- 結託のある社会では合理的裁定規範
- 特徴：
 - 対立する事柄だけでなくすべての事柄
 - 現在だけでなく将来にわたって決着

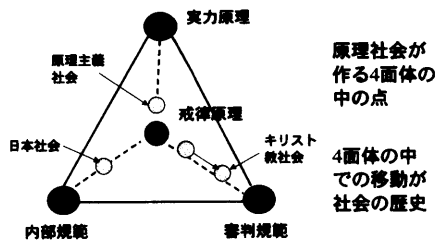
無矛盾世界観社会の維持統合

- 世界には整合的な秩序が存在
 - 行動規範 正義の体系＝個が従う規範
 - 普遍行動規範社会
- 戒律による社会の維持（戒律原理）
 - 行動規範：強制の源泉
 - ユダヤ、イスラム、共産主義
- 審判裁定による社会の維持（審判原理）
 - 宗教革命、啓蒙主義
 - 行動規範：自製の根源
 - 行動規範：先験知→経験知

矛盾世界観社会の維持統合

- 矛盾の存在を容認
 - 普遍的な整合的行動規範（正義）の体系が存在しない
 - 正・不正がいえない
- 対立の解消は実力行使
 - 成員と社会にとって不利
 - 対立の回避 和の強調→内部規範形成
- 対立の解消は両立化
 - 妥協、玉虫化、タブー化

統合原理の基本形と現実の社会



内部（ウチ）規範社会（1）

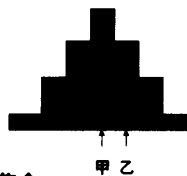
矛盾世界観に直接由来する性質

- メンバーは対立を回避する
和の強調
- 矛盾の両立化：妥協、玉虫化、タブー化
- 妥協＝結果平等志向
- 舞台裏と表舞台（芝居化）
- 調停者の発生

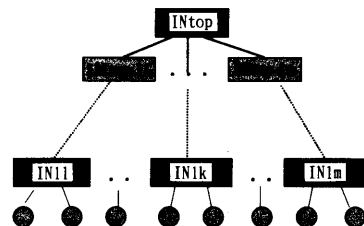
内部規範社会（2）

内部規範の発生

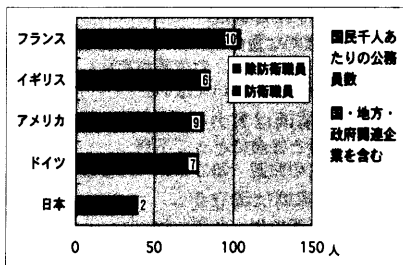
- 集団の中で
無矛盾の規範を集成
対立の発生を回避
 - ウチが発生
■ 円環的な重層構造
 - 規範は集団の中にある
- 規範の異なる戒律集団の集合



ウチの階層構造



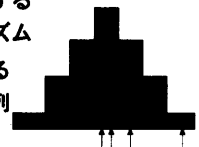
公務員数国際比較



内部規範社会（3）

内部規範から生まれる性質

- より内部の規範を優先する
談合、セクショナリズム
- 集団内に序列が発生する
規範序列→年功序列
- 異人を受容しない
- 同じ背景の人を集める



内部規範の移動

- ## 内部規範から生まれる性質（続）

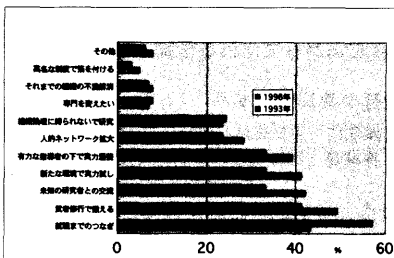
社会に普遍的な正義が存在しない
社会は利益追求集団の階層構造になる



- 科学を技術の背景として評価する
- 科学技術は特殊な集団のもの
科学者は社会的決定の中核に入れない
- 集団ごとに異なる知が形成される（流派）
- 研究者は内部規範社会のメンバー
審判規範集団のメンバー 二律背反

項目	■ 向上したと見る%	□ 低下したと見る%
環境問題	65	5
社会問題	12	8
治安	30	10
国際競争力	30	10
都市生活の基盤設備	58	10
経済力	38	10
働き易さ	42	10
教育費	52	10
国際競争力	52	10

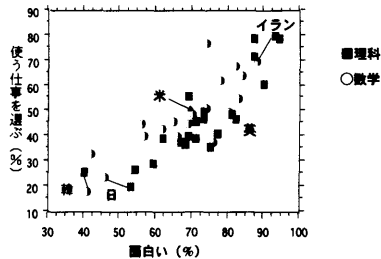
ポスドクの意識



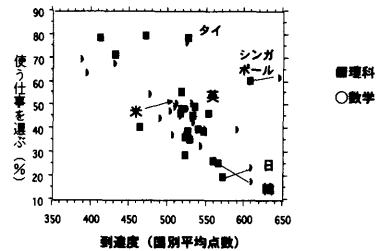
大学（院）教育の崩壊

- 博士課程の徒弟教育化
 広く深く限界を知る+問題設定能力の養成→研究室での研究実践のみ→狭士
- 修士課程：学部教育の延伸（レベル低下）
- 学部教育の低レベル専門教育課程化
 学力崩壊
 学生の困り込み
 →すぐ陳腐化する専門教育

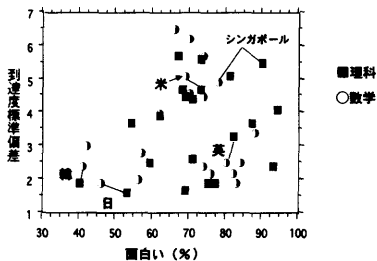
中学2年の理数科目 (1)



中学2年の理数科目 (2)



中学2年の理数科目 (3)



研究社会が選択する途

- 科学技術塾：自前の養成システム
 Hungarian Jew, 芸術, スポーツ...
- 人材獲得：世界（とくに途上国）の俊秀
- 立地：世界の最適の地←内部規範から離脱
 する、NEC, 東芝, 富士通...
- 「日本人の、日本人による、日本人のための科学技術」を超える
- 世界から尊敬される社会